飢　餓　と　貧　困　か　ら　人　び　と　を　救　う　た　め　に

食糧支援ニュースレター

WFP United Nations World Food Programme

2008.10.3

Vol.26

TOPICS

■「WFPの環境保全・改善活動」　シリーズその①
■アフリカの角地域が危機的状況に
■グルジア紛争　支援活動続く
■サミットの主要議題となった食糧問題
■「地球のハラペコを救え。」ポスター
■私たちのWFP支援　シティ
■緊急時にも「つながる」～WFPの情報通信技術～
■WFP写真展「知花くららが見たザンビア～hope～」開催
■国連WFP協会 2008年度上半期寄付実績報告

「WFP の環境保全・改善活動」　シリーズその①

気候変動が及ぼす危機に少しでも歯止めをかけようと、京都議定書が 1997 年に採択されました。各国はそれぞれ、温室効果ガス排出量に関する目標を達成しなければならず、日本でも削減率「マイナス６％」に向けて皆さん一人ひとりの貢献が求められています。

一方で、排出削減以外にも、植林や農耕地の有効活用などを通して、「出てしまったガスを取り込む」“吸収”という形で温暖化を食い止めることができるのをご存知ですか？実は WFP はこうした活動に大きな役割を果たしているのです。**WFP が通算して世界の 50 カ国以上の国で 50 億本の木を植えることに手を貸してきた**、というのは意外と知られていない事実でしょう。

このシリーズでは、実際に WFP の現場ではどのようにして環境に関する活動が展開されているのかを紹介していきます。

WFP の支援を受け植物の苗を育てている参加者たち（ニカラグアにて）

環境・気候変動と食糧問題

「温暖化など環境の問題は WFP や食糧支援にはあまり関係ないのでは？」…よくある質問ですが、実は深い因果関係があります。

WFP は自然災害の被災者に命綱としての食糧支援をしているのですが、**近年、気候変動などの影響で、世界中で人道支援を必要とする大規模な自然災害の数が大幅に増えています。**報告されている数を見ると、1970 年代には 100 件程でしたが、2005 年には 400 件以上に増えています。**特に被害を受けやすいのは、災害に対する対応力を持たないために深刻な食糧難に陥ってしまう最も貧しい人々です。**元々経済的に苦しい生活をしている人々にとって、災害で家屋や蓄えを失うことは死活問題です。

途上国の小規模農家の多くは、資金・技術不足から、依然、灌漑設備などを持たず、雨水などの自然に頼る農法を実践していますが、近年、度重なる**異常な降雨のせいで、作物の生産量が著しく低下している地域が多くあります。**イナゴの異常大量発生や竜巻なども農作物を一瞬のうちに破壊してしまいます。つまり異常気象は貧しい農家の食糧難に直結しているのです。

私たちに何ができるのでしょう？

まず第一歩は関心を持ってください。そして環境問題は食糧問題に密接に繋がっているということを知ってください。

WFP には、**木を植える作業に参加する代わりに、その労働に対する対価として一家分の食糧の配給を受けられる「フード・フォー・ワーク Food for Work」という支援システム**があります。なぜ「木」がそれほど重要なのでしょうか？ガスや電気のない農村や都市の貧困地域では、薪で調理をすることがほとんどです。そのため、森林伐採が進んでも、木を切って燃料にする以外にすべがありません。また、現金収入を得る手立てとして、薪を売ることもよくあることです。しかし、これでは森林資源が枯渇してしまうのは時間の問題です。

WFP の食糧支援を受けながら植林をすれば、自分や家族の栄養状態が改善でき、同時に地域や自分たちのために、環境を改善し守ることができます。植える木は果樹が多いので、食用にもなります。

このような当事者の自助努力を支援するという画期的な仕組みに皆さんも参加しませんか？植林は温暖化防止に有用であるとともに、水質保全、土壌浸食の防止、そして大気汚染の防止に効果的であることが確認されています。

WFP は平均して 1 本約 10 円で木を植えています。これには、支援食糧の調達・輸送、プロジェクトの適切な運営を検証し、効果を測定するモニタリングや、植林参加者のトレーニングなどといったすべての関連コストが含まれています。**まずは、木を百本植えることに参加してみませんか？**皆さんの 1,000 円が温暖化に歯止めをかける一歩になるのです。

（続きはホームページ（www.wfp.or.jp）とメールマガジンを通じてお届けします。ホームページのトップページよりメールマガジンの登録をお願いします。）

WFP の支援で行われた植林プロジェクト（ウガンダにて）

アフリカの角地域が危機的状況に

アフリカの北東部に位置する「アフリカの角」と呼ばれる一帯では、長引く干ばつに食糧価格の高騰や内紛等が追い打ちをかけ、大規模な飢餓が発生しています。同地域の状況悪化を食い止めるための、緊急支援が急務となっています。現段階ではエチオピア、ソマリア、ウガンダ、ケニア、ジブチの5カ国で計1,450万人が食糧支援を必要としていますが、9月から10月にかけての雨季に雨が降らなければ、さらに支援を必要とする人の数が増える恐れがあります。国別の状況は以下をご確認ください。

エチオピア　人々は食事の回数を減らしたり、家畜を売ったり、子どもを退学させて働かせたりして何とか苦境を切り抜けようとしています。現在は700万人以上が支援を必要としていますが、WFPは資金難のため最近、配給する食糧の量を3分の1に減らすことを余儀なくされました。

ソマリア　干ばつ、紛争、インフレ、食糧・原油価格の高騰が重なり、状況は悪化の一途をたどっています。支援を必要とする人は、今年の1月以降で4割以上増え、260万人に達しています。このままでは、大飢饉が発生した1992年～93年来の危機的状況に陥る可能性があります。

ウガンダ　北東部のカラモジャ地方では雨季に十分な雨が降らなかったため、9割以上の農民が耕作を断念しています。カラモジャ地方では3年連続の凶作となってしまいました。WFPは70万人を対象に支援を行っていますが、資金不足のため、配給食糧の量を削減せざるを得ない状態が続いています。

ケニア　今年に入ってから主要穀物の値段が5割以上上昇。昨年末の大統領選挙をめぐる混乱で避難生活を送る人もいまだ多く、さらに干ばつの影響も重なり、100万人以上が支援を必要としています。北部のツルカナ地方では5歳未満の子どもの急性栄養失調率が30%にまで迫っています。

ジブチ　3年連続の干ばつに食糧価格の高騰が重なり、食糧難に陥った人が急増しています。特に牧畜民への影響は深刻です。職を求めて多くの人々が都市部へ流入していますが職にありつける人はごくわずかです。都市部の生活環境は劣悪で、水も電気も通っておらず、医療や教育を受けることもままなりません。

現在、国連WFP協会では、アフリカの角地域に向けての緊急募金のお願いを実施しています。皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。募金に関するお問い合わせは、国連WFP協会（Tel. 045-221-2515、Email: info@jawfp.org）にお問い合わせください。※ご寄付は寄付金控除の対象となります。

ソマリアでは、治安の悪化、干ばつ、凶作で人々の生活が悪化し、新たな飢餓層が発生。

グルジア紛争　支援活動続く

8月7日より、グルジアからの分離独立を求める南オセチア自治州をめぐり、ロシアとグルジアの武力衝突が勃発。グルジア系国内避難民が発生する一方で、南オセチア自治州からも数万人がロシア領・北オセチア共和国などに避難しました。

紛争を受け、WFPはグルジアの首都トビリシや、激しい戦闘のあった都市ゴリ周辺などで、小麦粉、油、豆、塩、砂糖、高カロリービスケットを配給しました。炊き出しも行い、またパン屋に小麦粉を支給し、焼けたパンを避難民に配給しました。食糧支援活動のほかにも、国連・NGOなどの人道支援機関をまとめ、食糧やその他救援物資輸送のリードをとるという役割も担いました。

13日、グルジアとロシアの停戦合意が成立、各地へ避難していた人々の帰還が始まりました。しかし、多くの人々が未だに避難生活を続けているほか、不発弾に怯える市民も多く、事態は至って深刻です。

南オセチア自治州からロシア領・北オセチア共和国に逃れた3万8千人のうち、2万3千人以上が帰還しましたが、戦闘再開の恐怖や、学校が破壊されたことなどを理由に、ロシア領内の知人の家などで避難生活を送る人もまだ多く残ります。WFPはこの事態を受け、北オセチア共和国に逃れた難民にも200トンの食糧支援を計画しています。

8月18日、各国連機関やNGOは、今後6ヶ月間グルジア紛争の被災者に対する人道支援活動を行うにあたり、合同で、国際社会へ支援を要請しました。うちWFPは食糧支援に1,290万ドル、物資輸送に250万ドルを要請しました。

WFPではグルジア紛争の被災者への募金を受け付けています。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。詳しくはホームページをご覧いただくか、国連WFP協会（電話045-221-2515、email: info@jawfp.org）までお問い合わせください。

サミットの主要議題となった食糧問題

地球温暖化、原油高騰、食糧危機など、相互連鎖する地球規模の課題を背景に、7月7日から9日まで北海道洞爺湖で主要国首脳会議（G8サミット）が開催されました。今回のサミットでは、日本政府が5月に横浜で開催した第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）の成果を積極的に取り入れながら、世界経済、環境・気候変動、開発・アフリカ及び政治問題を主要議題として議論が行われました。食糧・原油価格高騰に対する大きな危機感がTICADでも表明されましたが、サミットでも引き続き対策が議論され、その成果文書である「北海道洞爺湖サミット首脳宣言」の冒頭部に「とりわけ、我々は、（中略）最も脆弱な人々に深刻な影響を与え、世界のインフレ圧力を高める一次産品、特に原油及び食料の価格上昇に強い懸念を表明する。」と明記されました。また、世界的な食糧価格の急騰を受けて、現在多くの開発途上国で食糧が入手困難となり世界の食糧安全保障が脅かされているとし、「世界の食糧安全保障」に関する独立のG8首脳声明も採択されました。声名文では、主要国首脳があらゆる可能な対策をとる決意とともに、影響を受けた国への短期・中期及び長期の支援を広く国際社会に呼びかけており、WFPを通じた緊急人道支援や、WFPが推進してきた食糧の現地購入（食糧支援で配給する食糧をなるべく途上国で買い付けること。コストの軽減のみならず、途上国の農業振興につながる）の重要性も記されています。また、WFPが推進する学校給食も、子どもの就学と健康を改善することができ得る有効的手段の一つとして「首脳宣言」の開発・アフリカ問題の中で取り上げられています。

「地球のハラペコを救え。」ポスター

世界の飢餓問題について考え、行動を呼び掛ける運動、「地球のハラペコを救え。」この運動を広めるため、株式会社電通のクリエイターの方々が制作して下さった2種類のポスターが、大変好評です。

ひとつは、「僕は飢えるために生まれてきたのですか。」というメッセージのもと、指の上に小さなハンバーガーが乗せられたポスターです。もうひとつのポスターは、地図上のアフリカ大陸が泣いている人のように見えるというもので、「地球に食べ物はある。ここに食べ物が届かないだけ。」というメッセージが添えられています。

WFPは日ごろより、広報・PR面で電通に多大なる支援をいただいています。そもそも、「地球のハラペコを救え。」というキャッチフレーズと運動のシンボルマーク（右上参照）も、WFPが「飢餓問題についての関心を高めたい」と電通（現 総務局CSR室社会貢献部）に相談をもちかけたところから生まれました。

このポスターは、電通のクリエイターの方たちが自主的に制作して下さったものです。ある日、WFP職員が打ち合わせに電通を訪れたところ、突然、「これ、僕たちからのプレゼントです」とデザイン案を手渡されました。スタッフにとってはうれしい驚きでした。その後、仕上げ作業が行われ、完成版は、WFPのジョン・パウエル事務局次長が来日した折に中村鐵 取締役副社長（当時）よりいただきました。

キャッチフレーズ、シンボルマークに続いてポスターの制作を手がけたのは、電通第4クリエーティブ局エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクターの本田亮さん。

「WFPのフィールドは地球全てなので国際的に見ても恥ずかしくない大人の表現を考えようと思いました。コピーに頼らず、ビジュアルだけでも伝わるインパクトのある表現、それが今回のクリエイティブの表現テーマです。」

多忙を極めるクリエイターの方たちが睡眠時間を削ってこのようなすばらしいポスターを制作していただいたということに、WFPスタッフ一同、心意気を感じ、感激いたしました。また、このポスターの制作には株式会社 電通テックにもご協力いただき、大変感謝しております。

10月以降行われるWFPのイベントでは、会場にお越し下さった皆さんに先着順でこのポスターを配布する予定です（数量限定。また、配布にあたっては、職場・学校など多くの方の目に触れる場所での掲示をお願いいたします）。配布場所などの詳細につきましては、今後WFPのメール・ニュースで告知いたします。ぜひホームページよりメール・ニュース登録を行い、イベント情報をチェックして、「地球のハラペコを救え。」ポスターを入手してください。そしてこれをきっかけに、ご家族、同級生、同僚など周りの方たちと飢餓問題について話し合ってみてはいかがでしょうか。

私たちのWFP支援　シティ

シティは、WFPのコーポレート・パートナーとして全世界規模でWFPの人道支援活動に積極的に協力しています。日本でもさまざまな支援企画を推進しています。

東京・天王洲のシティグループセンター内にある社員向けカフェテリアでは、2008年3月から「シェア・ユア・ランチ -Share your Lunch 1つの食事・飲み物を2人で分けよう」をキャッチフレーズに、「カフェテリア・チャリティ・プログラム」を展開しています。カフェテリアで提供する食事やコーヒーの価格には10円から20円の寄付が含まれており、ここで食事をすると自動的にWFPの学校給食プログラムを支援できる仕組みになっています。

「シェア・ユア・ランチ」のコンセプトからはもう一つの企画が生まれました。東京・丸の内の新丸ビル19階にある日興シティグループ証券とシティバンク銀行のカフェテリアでは、ランチタイムにカロリー控え目の特製弁当を一日50食限定で販売しています。この特製弁当の売り上げからは1食あたり20円が国連WFP協会に寄付されます。「ヘルシーな食事をとりながら社会貢献ができるこの企画はたいへん人気で、お弁当はほぼ毎日完売です」と、日興シティホールディングス社会貢献推進部の内藤和美副部長は話します。

新丸ビルのオフィスでは、もう一つユニークな取り組みが行われています。シティバンク銀行の休憩スペースにある自動販売機の飲み物やスナックの価格には、国連WFP協会への寄付金として商品1点あたり50円が含まれています。仕事の合間のリラックスタイムも、このおかげでちょっとした社会貢献の場になっています。

ここに紹介した3つの取り組みによって、2008年8月現在、累計2,723,580円が国連WFP協会に寄付されています。

2008年5月にはシティグループセンターで、社員に向けて国連WFP協会の職員が世界の飢餓状況とWFPの食糧支援について解説するセミナーが開かれました。セミナー終了後の会場には何人もの参加者が残り、熱心に質問する姿が見られました。「参加者にとって世界の飢餓の話は衝撃的だったようです。日本に住んでいると意識しにくい飢餓問題ですが、それを自分に引き寄せて考え、関わるきっかけを、今後も職場を通じて社員に提供できたらいいと思います」と内藤副部長は抱負を語りました。

シティグループセンターでのプログラムの立ち上げに貢献したカフェテリア管理担当の田坂さん

緊急時にも「つながる」～ WFP の情報通信技術 ～

自然災害や紛争などの緊急時にいち早く支援を開始するには、被害の状況を把握し、緊急支援に関わる様々な団体と連絡を取り合うことが不可欠です。しかし、緊急時には大抵の場合、通信網が破壊されていたり、そもそも存在しなかったりして、そのままでは電話やメール、トランシーバーなどが使えません。WFP の情報通信の専門家集団、ICT（情報通信技術）チームは、このような緊急時にいち早く被災地に入り、損壊した通信や電力インフラを復旧、そしてこれらのインフラの存在しない地域では独自の通信設備を整え、WFP を始めとする人道支援組織が直ちに支援活動を開始できるようにしています。

WFP の ICT チームは、ユニセフ・国連人道問題調整事務所（OCHA）と共に、緊急時の通信インフラ網を整備する中心的な役割を果たしています。国連機関や NGO などさまざまな人道支援機関が緊急支援活動を行えるよう、サポートしているのです。ICT チームは、緊急事態が発生し要請を受けてから 48 時間以内に被災地入りし、通信網の接続に着手することを目指しています。2004 年のインド洋の大津波では、ドバイを拠点とする ICT チームが、発生から 24 時間で最も被害の大きかったインドネシアのバンダアチェに到着しました。これは、ドバイからの移動にかかる 16 時間を含めた時間です。現地入りした ICT チームは、アンテナを立て、無線、衛星電話回線、GPS（自分が地球上のどこにいるのかを正確に割り出すシステム）、インターネットの接続環境などを整備します。これにより、WFP や国連諸機関、支援団体の職員は、トランシーバー、電話、GPS 端末やメールなどの通信手段を使えるようになり、刻々と変化する被災地の状況に応じて食糧を注文したり、支援物資を載せた飛行機などがいつ到着するかを正確に把握したりすることができるようになります。また、他の国連機関や協力 NGO、政府などと綿密に連絡を取り合って、被災地の地図や治安状況、道路状況などの情報を共有することもできるため、最も効率的な方法で緊急支援を進めることができます。最前線で支援活動を行う職員の安否確認や、事故など緊急事態発生時の連絡も容易となります。

WFP の ICT チームは緊急時の人道支援活動に極めて不可欠な存在です。WFP のジョゼット・シーラン事務局長は、ICT チームを「世界の 911（緊急通報用電話番号）」と呼んでいます。現在、WFP はユニセフ・国連人道問題調整事務所（OCHA）と共に、通信インフラの整備が特に遅れているインドネシア、アフガニスタン、中央アフリカ共和国など 32 カ国を対象とした情報通信インフラの強化を計画しています。この事業は緊急時における人道支援機関の連携強化に大きな効果をもたらします。しかし、事業に必要な約 910 万ドルのうち、現在のところ 280 万ドルしか資金を確保できておらず、更なる支援が求められています。WFP の ICT チームはこれからも、縁の下の力持ちとして緊急時の人道支援活動を支えます。皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

アフガニスタンでの作業の様子

WFP 写真展「知花くららが見たザンビア～ hope ～」開催

WFP のオフィシャルサポーターを務める知花くららさん（2006 ミス・ユニバース・ジャパン、ミス・ユニバース世界大会第 2 位）のザンビア視察旅行を題材とした写真展、「知花くららが見たザンビア～ hope ～」を開催します。深刻な貧困や飢餓など困難な状況の中でも、人々が希望（hope）を持って力強く生きており、また、WFP が行っている食糧支援がその希望を支えていることを、知花さんの目を通して伝えます。

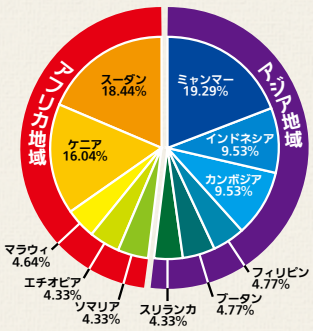
今年 4 月、知花さんはザンビアを 10 日間に渡って訪問。栄養不足の子どもたちやエイズ孤児、洪水や干ばつで壊滅的被害を受けた農家などとの出会いを通して、貧困、気候変動、エイズ、そして飢餓などさまざまな問題を目の当たりにします。一方で、WFP が学校で配給している給食が、栄養不足の子どもたちの命を支えるばかりか、学校へ通うための動機付け、いわば「呼び水」となっていることを実感します。また、WFP の支援を得ながら有機農法を学び、自立を果たした農家を訪問。「自立して人生が変わった」という彼らの誇りと希望、夢にも触れます。会場では、知花さんの現地での様子を撮影した写真やビデオとあわせ、知花さん自身が撮影した写真やメッセージなども展示する予定です。ぜひご来場ください。

会　期：2008 年 10/8（水）～ 10/30（木）
　　※土日・祝日休館
時　間：午前 9:30 ～午後 5:30
場　所：国連大学施設内ギャラリー
　　（渋谷区神宮前 5-53-70）
入場料：無　料
協　力：アイビージージャパン株式会社
　　AC（公共広告機構）

国連 WFP 協会 2008 年度上半期寄付実績報告

2008 年度上半期（2008 年 1 月～ 6 月）に国連 WFP 協会にお寄せ頂いた個人、企業・団体からのご寄付は、合計で 310,289,683 円となりました。そのうち企業・団体からのご寄付は 128,749,446 円、個人からのご寄付は 181,540,237 円です。これは半期の数字としては国連 WFP 協会設立以来最高となるものです。特に、2008 年 5 月にミャンマーで起こったサイクロン被害を受け、WFP 国連世界食糧計画と国連 WFP 協会が呼び掛けた被災者に対する緊急食糧支援には、皆様から迅速なご支援（上期末時点で 27,567,434 円）を頂きました。「WFP の活動を日本から支えてくださる皆様に感謝申し上げます。ご支援の輪が年を追うごとに拡がってきていることに、職員一同勇気づけられております。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます」と、国連 WFP 協会専務理事、田邉邦典は感謝の意を述べています。

なお、日本の皆様からお預かりしたご寄付のうち 230,892,855 円[注] を、2008 年 1 月から 9 月までに、アジア及びアフリカ地域の各国で行われている WFP のプロジェクトに、右に示した割合で活用させて頂きました。詳しいご寄付の使途とその成果についてはホームページに随時レポートを掲載いたします。



注）皆様からお預かりしたご寄付の 75%以上は国連 WFP 協会より WFP ローマ本部に送金され、現地における食糧支援活動に充てられています。なお、ご寄付の 25%の範囲内で、国内での募金活動、啓発宣伝費、管理費等の事業経費に充てさせていただいております。また、この 25%を差し引いた金額と 9 月までの送金総額との差額は 10 月以降に送金実施の予定です。

ご入金／ご寄付のお願い

WFP は食糧支援を通じて「未来」を届けています。WFP の食糧支援活動にぜひご協力ください。

●会員となって国連 WFP 協会の活動を支えてください。

一般会員（個人として活動を支援）…年額一口 5 千円
学生会員（学生として活動を支援）…年額一口 2 千円
団体会員（企業や団体などで活動を支援）…年額一口 5 万円

●ご寄付をお願いします。

世界中で展開されている WFP の食糧支援活動を一層充実させるため、日本の皆様にご寄付をお願いしています。お預かりしたご寄付は WFP ローマ本部に送金されます。

＊会費または寄付の別を明記の上、下記ゆうちょ銀行口にお振込みください。
口座番号＝ 00290 - 8 - 37418　　加入者名＝国連 WFP 協会

WFP 国連世界食糧計画日本事務所
〒 220-0012　横浜市みなとみらい 1-1-1　パシフィコ横浜 6 階
www.wfp.or.jp

国連 WFP 協会
〒 220-0012　横浜市みなとみらい 1-1-1　パシフィコ横浜 6 階
www.wfp.or.jp　TEL . 045-221-2515　FAX . 045-221-2534

FSC 森林認証紙（SGS-COC-1773）にノン VOC インキ（石油系溶剤 0%）で印刷しています。